



炬火を掲げていざ謳う

No.30



# 我々の泉鳥取

2022年12月23日(金)

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

国語科中心の卒業文集

## 飛翔

1期生から14期生にかけて、泉鳥取高校の国語科では、生徒の学習活動の取りまとめとして、『飛翔』という生徒の作品集を刊行していましたが、15期生でいったん終了しましたが、16期生の3年学年団と国語科が出版したのが『泉鳥のかくし味』、17期生の学年団と国語科で発行したのが『玉ねぎの産地にできた泉鳥を遠くながめて目にしみるかな』です。今では珍しくなった教科の学習活動の取りまとめや生徒の書いた小説作品、授業ノートや取り扱った教材、さらに生徒の短歌作品などをまとめたものです。



故 山口 弘先生

旧職員の話によると、この『飛翔』は国語科の故山口弘先生をはじめとする1期生の国語科担当者が授業から蓄積した取組みを発行したのがきっかけでした。第1号(昭和54<1979>年発行)の編集後記を見てみましょう。

二年間お預けになっていた文集づくりも三年目になりやっと念願が叶い、ここに国語科作成の文集、第一号ができあがりました。今年一ヶ年の各学年の作品をとりあげてみましたが三年生の卒業文集の意味もこめて三年生の作品にウェートを置いてみました。初めての試み故、内容・構成において不十分な点が多々あると思いますが、今後はより充実した文集にしていきたいと思っています。

第4号では1年生で取り上げた芥川龍之介の『羅生門』の続きを生徒が作り、「それからの下人」として発表していますし、スタジオジブリの「風立ちぬ」の原作の一つとなった堀辰雄『風立ちぬ』の感想や授業ノートが収められています。

国語科作成の『飛翔』最終号である第14号では、「泉鳥四〇〇人一首」として、卒業生全員の短歌が載せられています。時代を表す一首をご紹介しますと、

教室の 窓より見える 新空港

一番機より 早く飛び立つ

その後15期生を除く17期まで、学年団によって文集は作られましたが、生徒指導の多忙化や、当初の情熱を持つ教職員の転出、予算不足などがあって、17期生を最後に製作されなくなりました。

最後に17期生の作品から一つご紹介します。

卒業が 近づくにつれ やっと今

わかりはじめた 高校のよさ

(令和4年の『我々の泉鳥取』は本号までです。次号は令和5年1月8日再開予定です)

